

丸亀で会いましょう

お城が大好き ～会話を楽しみ、心豊かに～

丸亀市文化財観光案内会会長、丸亀城ボランティアガイドとして活躍の高畑昭さん。もともと古いものが好きで、20代から文化財保護協会にも所属し、茶道や陶芸を嗜み、季節感を取り入れて日々の暮らしを楽しまれています。観光案内は、お城を愛する気持ち、丸亀の歴史への関心と、歩くことで健康増進にもなるので、ライフワークとして始めたそうです。



高畑 昭さん

「観光案内のためのマニュアルはありますが、8割以上は自分で学び続けています。」日頃は、図書館で歴史や郷土資料を繕き、自主的に勉強されています。「図書館は、先人の知恵と恩恵が受けられる場所。国立国会図書館まで繋がっている」と語る言葉から、史料に対する真摯な思いを感じました。県内外での研修にも足を運び、ご夫婦でのご旅行も楽しい学びの機会になっているそうです。

観光案内は、お客さんの時間や体調を考慮しながら、天守閣まで行けるかどうか、どこまで説明するか等の配慮が必要です。時には、観光客だけでなく地域の子どもの「ふるさと学習」にも活躍されています。「お城を理解し、知ってくれることが何より嬉しい」と和やかな笑顔で語る高畑さんの話に、郷土の文化財への興味をかきたてられました。

平成12年に発足した丸亀城ボランティアガイドは、現在、会員約20名。3月～12月の毎週日曜日 午前9:30～12:00 見送り坂登り口で待機し、無料で見どころを案内しています。

<申し込み・問い合わせ先>丸亀市文化財観光案内会事務局（丸亀市教育委員会文化課内）TEL:0877-24-8822

Information

ゆめオープン ところ:生涯学習センター5階 ゆめ

●「地産地消と食育」

と き:平成21年4月8日(水)10:00～11:30
講 師:行点統一さん(食のアドバイザー)
主 催:丸亀消費者友の会

「ゆめの部屋に」来てごんな!

と き:5月2日(土)・3日(日) 10:00～16:00
図書・絵本・パネルの展示などを行います。
お気軽にお越しください。
問合せ先:市企画課男女共同参画室(TEL:24-8839)

カエル!ジャパン Change! JPN をご存知ですか

内閣府仕事と生活の調和推進室では、男女がともに、仕事、家庭生活、地域生活など様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を推進しています。みなさんもひとつ「働き方」を変えてみませんか。詳しくは、仕事と生活の調和推進ポータルサイトをご覧ください。
<http://www8.cao.go.jp/wlb/>



「子どもと親と性と生」

安達優雅子著(東京シュレー)

子ども達に身体や生命や性に対するメッセージを贈る大人の人に手にとってほしい。

図書の紹介



「素直にシニアライフ

～老いに向かって生きるふたり～

村瀬敦子&村瀬幸治(大月書店)

老いに向かい、老いを生きる時こそコミュニケーションを大事にしたい。

編集後記

2009年、日本で46年ぶりに皆既日食が見られる。ガリレオ・ガリレイが初めて夜空に望遠鏡を向けてから400年。進化論で有名なチャールズ・ダーウィンの生誕200周年。「種の起源」出版から150周年など、天文分野から生命科学分野まで記念の年。「人類よ、地球よ、どこへ行く?」(Y)

ゆめネットワーク情報紙



飯山北幼稚園



平成20・21年度
男女共同参画モデル校



西中学校

丸亀市男女共同参画講演会

経営戦略・地域戦略としてのワーク・ライフ・バランス

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を推進するためには、まず、みんなが思いやりを持つことが大切だ。職場や家庭で「相手の時間」を大事にでき、お互いに支えあうことができること。そして自分も大切にすることができること。

渥美さんは、15年前から地域の子どもの会活動に関わる時間を大事にしてきた。育児休業を取得し、家事・育児も経験した。その経験から、限られた時間の中で業務の優先順位を整理し、業務効率も向上、突発的な事故などのリスクを予知して回避する能力も高まるなど、仕事に役立っているそうだ。

だれもが意欲をもって多様な生き方に挑戦でき、健康で豊かな生活を送る、そういった質の高い生活が、やる気を引き出し、質の高い仕事につながる。また、メリハリのある仕事は生活にゆとりをもたらすという相乗効果が得られる。

そして、創意工夫を凝らし、働きやすい職場環境と暮らしやすい地域環境をつくることで、自治体に活力が生まれ、豊かなまちづくりにつながっていく。



2/13

渥美由喜さん
(株式会社通研主任研究員)

【参加者アンケートによる感想より】

- ・ワーク・ライフ・バランスで、働きやすい環境をめざしていきたい。また人として、支え合い、思いやりがもてる職場づくりを私自身から発信していけたらと思います。(女性)
- ・経営者にとっても、イキイキ社員が増えてほしい。いつでも仕事をサポートし合えるための情報共有や業務の標準化をはかりたい。(男性)
- ・自分の職場の欠点がよく見えるようになった。先は長く困難だけど、諦めるのもまだ早いと思いました。(女性)
- ・育児を妻に任せきり(共働きなのに…)の現状、両親の介護も妻がしてくれるのが当然と思っていた。自分の生活を少し変えた方が良かったと思った。(男性)
- ・一人ひとりの意識改革、気づき、思いやりが大切だと感じました。(女性)
- ・ワーク・ライフ・バランスが思いやりであることが、講演を聞いてよく理解できました。自分の職場でも実践できるようにしていきたいです。(男性)